

# 教育

授業では見えない子どもたちの素顔はいろいろある。愛知県小牧市の小牧中学校では、そんな子どもたちの輝きを引き出す取り組みが行われている。校長室から見つけた「子どもを輝かせる場づくり」の実践を紹介する。

「読んだ本の内容を、校長室に来て教えて」。玉置崇校長はことし五月末、図書館にこんな呼び掛けを掲げた。本年度、校長の提案で「いのちを実感させるプロジェクト」



## 校長室から

愛知県小牧市小牧中

## 命の本で輝き引き出す

上

ト」を始めた。図書館の担当教師はこれを受け、「命のテーマの本」を蔵書から二百冊選び出し、さらに市の図書館からも

二百冊取り寄せてコーナーを設けた。

玉置校長は「全部を読みたいけれど、時間がな

い。私の学びを助けてくれたら、ささやかですが、プレゼントを差し上げます」と、直接生徒に訴えたのだ。各教室で生徒が見る端末でも、同じ呼び掛けを載せた。

三年の渡部野乃花さんは「葉っぱのフレディ」。『おばあちゃんにこの本を薦められて読んだときは、「いのち」について深く考えさせられたのを覚えています」と話し、本を通して家族との関わりまで見えた。

特設コーナーで、本を探る生徒たち。愛知県小牧市の小牧中で



三日後、今まで話をしたことがなかった二人の生徒が昼休みに訪れた。次の日は三人。九人がやって来た日もある。み

んな本を手にして一生懸命語る。中にはコーナー以外の本を持って来室した生徒もいた。

校長室を訪問した人数は数えていないが、男女はほぼ半々。玉置校長は消しゴムやカラーマーカーなどの文房具をプレゼント。生徒の了解が得られれば、内容を学校のホームページに掲載した。渡部さんは「校長室を訪れて話すのは、少し勇気がいったけれど、校長先生と本の話ができたことはとてもうれしかったです」と振り返る。

「一週間に三、四冊も読んでいる子もいた。生徒と触れ合え、教室とは違つ面を見せてもらえて本当に良かった」と玉置校長。読書週間中の十月末、コーナーには市の図書館の新たな「命の本」が並んだ。(川本公子)